

（1）学習の状況と課題

- 1年 全体を通して、表現及び鑑賞の活動に意欲的に取り組んでいる。小学校での学習内容の定着状況には個人差が見られる。仲間と協力して合唱をつくり上げようとする態度が育ってきている。豊かな発声について、知識が実践に結びついていない生徒もいる。2割程度の男子生徒が変声期のため歌いづらい様子が見られる。
- 2年 全体を通して、表現及び鑑賞の活動に向上心をもって意欲的に取り組んでいる。歌唱については女子生徒は豊かな発声が身についており、男子生徒も変声期がほぼ終わり、のびのびと表現している。器楽（アルトリコーダー）に意欲的に取り組む生徒が多く、技能面の修得状況も良好である。楽典等の知識に個人差が見られる。
- 3年 全体を通して、表現及び鑑賞の活動に向上心をもって意欲的に取り組んでいる。自ら課題意識をもって学習活動に取り組むことができる生徒が多い。楽曲に対する思いや考えを自らの言葉で表現することができる。豊かな発声が身についており男女ともものびやかに表現することができる。

（2）指導改善の観点（課題解決のための具体的な授業改善策）

- 1年 楽典等の基礎的・基本的な内容については、表現及び鑑賞の活動を通して繰り返し指導していくことで定着を図る。豊かな発声については、仲間の歌声から学び合うことができるよう、実践を通して修得できるよう指導する。音楽表現を工夫するために、音楽を形づくっている要素を知覚させ、実践を通して丁寧に指導する。
- 2年 音楽活動の意欲的な取り組みが継続するよう、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら創意工夫を生かした表現ができるよう、実践を通して知識をバランスよく身につけさせる。男子生徒の豊かな発声習得に向け、一人ひとりの状況を把握しながら丁寧に指導する。
- 3年 これまでの学習内容を生かしながら、無伴奏の合唱の練習を通して音程感・和声感を身につけさせる。歌詞の内容を理解し、創意工夫を生かした音楽表現を求めて、引き続き意欲的に活動できるよう指導していく。

（3）指導方法改善のポイントと方策

- 1年 2学期の前半は合唱、後半は器楽に重点を置いた指導を行い、それぞれの教材の中で効率よく楽典等の知識を習得させ、表現と鑑賞の各領域で関連をもたせた指導を行い、楽曲の中で応用できる力を育てていく。
- 2年 2学期の前半は合唱、後半は器楽に重点を置いた指導を行い、それぞれの教材の中で音程感・和声感を身につけさせていく。曲種に応じた発声の意味や効果を理解させ、より実践に結びつけ、表現活動に生かせるようにする。
- 3年 より高度な楽曲を通して、これまでに学習した事項を応用させ、生徒相互の話し合い等を通じて理解を深め、高めあい、実践する力を伸ばしていく。